

平成29年度 富山保育園 職員自己評価結果

特定教育・保育施設では、自らの提供する特定教育・保育の質の評価を行い、その改善を図らなければなりません（岡山市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例）。そのため、富山保育園（現：とみやまこども園）では、毎年度、様々な自己評価の方法を用いて提供する教育・保育を評価し、改善を行っています。平成29年度は、萌文書林「保育者のための自己評価チェックリスト」の評価項目を参考に、平成30年2月に保育士・栄養士・看護師等の全職種が293項目の自己評価を行いましたので、ここに結果の一部（72項目）をご報告いたします。これらの結果を今後の教育・保育の改善のために生かしてまいりたいと思います。

回答者：保育士・栄養士等20名

問	内容	「はい」と答えた割合
1	幼稚園、保育所、認定こども園に関する法令を読み、それを理解している	★55 %
2	「教育要領」、「保育指針」、「教育・保育要領」を読んだことがある	100 %
3	乳幼児期の教育及び保育は、人格形成の基礎を培う重要なものであることを理解している	100 %
4	乳幼児期の教育及び保育で、生涯にわたる「生きる力」の基礎が培われることを理解している	100 %
5	乳幼児期の教育及び保育は、子どもの最善の利益を考慮して進めることを理解している	100 %
6	環境を通して教育及び保育を行うために、重視しなければならない事項について説明できる	★40 %
7	乳幼児期の教育及び保育において、家庭や地域での生活を含め、子どもの生活全体が豊かなものとなるように努めている	95 %
8	子ども一人ひとりが、安心感と信頼感をもって色々な活動に取り組む体験を積み重ねられるよう配慮している	95 %
9	子ども一人ひとりが、生命の保持が図られ、安定した情緒の下で、自己を十分に発揮する体験ができるように心がけている	90 %
10	子どもの主体的な活動を促し、一人ひとりが意欲をもって遊べるような援助を心がけている	90 %
11	子ども一人ひとりの特性や発達の過程に応じ、発達の課題に即した援助を行うように努めている	95 %
12	子ども一人ひとりの行動の理解と予想に基づき、計画的に物的・人的環境などを構成している	75 %
13	保護者と共に、子どもを心身ともに健やかに育むよう努めている	95 %
14	0歳(入園)から小学校入学までの一貫した発達の連続性を考慮して保育している	80 %
15	一日の生活の連続性やリズムの多様性に配慮して、保育を展開している	★65 %
16	一人ひとりの子どもの生理的欲求が、十分に満たされるように配慮している	90 %
17	登園時の子どもの健康観察を行っている	90 %
18	いつでも安心して休息できる雰囲気やスペースを、保育室をはじめ園内に確保している	80 %
19	子どもとの温かなやり取りやスキンシップを、常に心がけている	100 %
20	子ども一人ひとりに、わかりやすい温かな言葉で、おだやかに話しかけている	100 %
21	子どもが不安になったときにいつでも受け止められるよう、一人ひとりを視野に入れている	85 %

22	「早くしましょう」など、せかす言葉をできるだけ使わないで、一人ひとりに合わせた対応を心がけている	★45 %
23	「だめ」「いけません」など、制止する言葉を不必要に用いないようにしている	★65 %
24	「待ってて」「あとで」などと言わず、なるべくその場で対応するようにしている	★60 %
25	「できない」「やって」「いや」などと言ってくる時、その都度気持ちを受け止めて対応している	95 %
26	登園時、泣く子どもに対して、放っておいたり、叱ってしまうことがないようにしている	95 %
27	登園時、子どもの状況に応じて、抱いたり、やさしく声をかけたりしている	95 %
28	子どもの日々の健康状況を把握し、それを一人ひとりの保育に生かしている	75 %
29	身長・体重などの定期的な計測や健康診断などの結果から、子どもの発育状況を把握して日常の保育に生かしている	★55 %
30	健康診断の結果を、子どもに関係する他の職員と共有している	85 %
31	子どもの中に感染症が発生したとき、発生状況や予防対策などをすぐに全保護者に連絡している	80 %
32	感染症などの発生や疑いのある場合は、園医やかかりつけ医、市町村、保健所などとともに、全職員にも連絡すべきことを知っている	80 %
33	疾患のある子どもに対して、園医やかかりつけ医からの指示に基づいて対応している	100 %
34	子どもの体調が悪くなったときに、保護者をはじめ園医やかかりつけ医と連絡をとるように心がけている	80 %
35	子どもの与薬を要請された場合、園医やかかりつけ医の指示など、留意事項の確認をしている	90 %
36	家庭では十分に睡眠をとるなど、健康な生活リズムを身につけるよう、保護者との連携に努めている	85 %
37	一人ひとりの子どもの、出生時から入園するまでの発育・発達の状況などを把握している	★40 %
38	子どもが活動しやすいように、その都度保育室の換気や温度・湿度に配慮している	80 %
39	毎日の温度・湿度を点検し、記録にとっている	★10 %
40	手洗い場やトイレを適宜清掃し、常に清潔に保つようにしている	100 %
41	砂場については動物の侵入を防いだり、玩具・遊具については適宜消毒するなど、衛生面に配慮している	80 %
42	施設・設備の安全に関する点検を、マニュアルに沿って確実にしている	90 %
43	与えられた責任の範囲で、救急用の薬品など園の備品を管理している	65 %
44	衣服の着脱や食事などについて、子ども一人でできるように見守りながら援助をしている	100 %
45	園生活の活動や発達の状況などを保護者に伝えている	80 %
46	災害時に身を守るための避難訓練を、子どもが自分から進んで参加するように実施している	75 %
47	不審者が園内に侵入した際、どのように対応するのかを理解している	70 %

48	子どもが落ち着いて食事・おやつを楽しめるように配慮している	90 %
49	食べ物を残したり偏食したりするとき、過度に叱ることがないように心がけている	90 %
50	子どもが栽培・収穫したものや、調理したものを食べるなどの機会を作るように心がけている	75 %
51	自分自身が「いただきます」「ごちそうさま」と感謝の気持ちをもって食事ができるように努めている	95 %
52	食事のマナーについて、食事をしながら話しかけるなど、自然に身につくように工夫している	100 %
53	食事の際、子ども同士が会話をするなど、楽しんで食べることができる雰囲気づくりに配慮している	100 %
54	自然の恵みとしての食材や、調理する人への感謝の気持ちが育つよう心がけている	80 %
55	その日の給食の食べ具合などを、必要に応じて保護者に知らせている	70 %
56	子どもが楽しく食べることができるように、食育の計画を作成している	50 %
57	食物アレルギーのある子どもに対して、園医やかかりつけ医と連携して除去食を取り入れるなどの配慮をしている	95 %
58	子どもの体調に応じて、食事の量を調節するなどの配慮をしている	90 %
59	子どもの発達は、豊かな心情、意欲、態度を身につけ、新たな能力を獲得していく過程であることを理解している	80 %
60	子どもの発達の特性や発達過程を理解し、発達の連続性に配慮して保育をしている	★25 %
61	発達過程区分は、同年齢の均一的な発達の基準ではなく、一人ひとりの子どもの発達過程としてとらえている	65 %
62	子どもと生活や遊びを共にする中で、一人ひとりの心身の状態を把握している	★15 %
63	子どもの人権や、一人ひとりの個人差を尊重して保育している	★15 %
64	子どもは様々な環境との相互作用により、発達していくことを理解している	★50 %
65	子どもが興味や関心を示し、主体的に関わる環境を用意している	★45 %
66	子ども同士の関係の基盤となるように、一人ひとりの子どもと信頼関係を構築している	★10 %
67	心身の発達の個人差を理解するために、一人ひとりの生理的、身体的な諸条件や生育環境の違いを把握している	★50 %
68	仲間との関係の中で「個」の成長も促すことを意識して、遊びが展開されるように配慮している	100 %
69	豊かな感性と共に好奇心、探求心や思考力が養われるように保育を工夫している	★55 %
70	子どもが興味や関心をもったものに対して、自分から関わろうとしている姿を認めたり励ましたりしている	95 %
71	発達の気になる子どもや、障害のある子どもに対しても子ども自身の力を十分に認め、適切な援助及び環境構成を行っている	★60 %
72	園の生活になじみにくい子どもに対しても、一人ひとりに応じた適切な援助及び環境構成を行っている	100 %

平成29年度 職員自己評価結果へのコメント

1	幼稚園、保育所、認定こども園に関する法令を読み、それを理解している	★55 %
2017年に「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の改訂があり、2018年度より施行されています。現在、全職員が新しく改訂されたそれらの法令を読んで勉強していますが、今までの教育・保育と何がどのように変わったのか、少しずつ理解を深めているところです。今後も園内研修や個別研修で、それらの法令の理解を深め、教育・保育の向上に努めていきたいと思っています。		
6	環境を通して教育及び保育を行うために、重視しなければならない事項について説明できる	★50 %
自らが提供している教育・保育の内容について、職員一人一人が地域や保護者、小学校等の連携機関に説明ができるようにしていきたいと思っています。		
15	一日の生活の連続性やリズムの多様性に配慮して、保育を展開している	★65 %
子ども達の個々の特性や興味・関心、発達を理解して今度も保育を行っていききたいと思っています。		
22	「早くしましょう」など、せかす言葉をできるだけ使わないで、一人ひとりに合わせた対応を心がけている	★45 %
子ども達と接している職員自身が、心に余裕を持って保育を展開して行きたいと思っています。		
23	「だめ」「いけません」など、制止する言葉を不必要に用いないようにしている	★65 %
危険が伴う緊急の場合には制止する言葉を使わなければなりません、子どもには「ダメ」などの否定的な言葉は、有効ではありませんので、できるだけ「○○しようね」など、肯定的な言葉を用いて保育を展開したいと思っています。		
24	「待ってて」「あとで」などと言わず、なるべくその場で対応するようにしている	★60 %
こういう場面は、必ずあります。しかし、すぐに対応出来なくとも、忘れずに子ども達に声を掛けたいと思います。また、すぐに対応できない場合には、できるだけ他の職員に対応を頼むようにしたいと思っています。		
29	身長・体重などの定期的な計測や健康診断などの結果から、子どもの発育状況を把握して日常の保育に生かしている	★67 %
毎月の身体計測等の結果を児童票等の書類に記録し、お帳面等にも記録して家庭へお知らせしています。3歳児以上のクラスの子どもさんについては、毎年、やせ・肥満の調査をして、低身長や低体重・肥満等の子どもさんには、発達曲線等の記録に残して、必要に応じて個人懇談等を行っています。しかしながら、発育状況に特に配慮が必要な子どもさんだけでなく、全ての子どもさんの発育状況について、今後も細かく把握して、保育に生かす工夫をしていきたいと思っています。		
37	一人ひとりの子どもの、出生時から入園するまでの発育・発達の状況などを把握している	★54 %
一人ひとりの子どもの、出生時から入園するまでの発育・発達の状況については、入園時等に書類に記入していただいたり、個人懇談や親子手帳等で担任や中堅職員・管理職は把握をしています。しかしながら、全ての子どもの情報については、担任以外の全職員は十分に理解はできていません。今後も把握をするように努めていきたいと思っています。		
39	毎日の温度・湿度を点検し、記録にとっている	★17 %
保育中の一人ひとりの子どもの健康状態については、担任やその他の職員等で常にチェックをしています。また、保育室の温度や室温の点検・確認はしていますが、記録には残していませんでした。子どもたちの健康チェックの記録用紙に欄を設けて、1日複数回記録をしていきたいと思っています。		
60	子どもの発達の特性や発達過程を理解し、発達の連続性に配慮して保育をしている	★25 %
0歳児から6歳までの子ども達の発達の幅は大きく、担当している年齢の子ども達の発達は理解は出来ていますが、その前後の発達の連続性の理解も深めていけるように、研修等でスキルアップを図っていききたいと思っています。		
62	子どもと生活や遊びを共にする中で、一人ひとりの心身の状態を把握している	★15 %
園内の状況は把握できていますが、子ども達の家庭での生活状況や心の状態は十分に把握できていないと言えます。今後とも、保護者の皆様と子どもについての情報交換を密にして把握して行きたいと思っています。		

63	子どもの人権や、一人ひとりの個人差を尊重して保育している	★15 %
個々の子どもの理解を深めること、また人権についても様々な配慮を今度ともしていきたいと思います。また、人権の研修に積極的に参加をしていきたいと思います。		
64	子どもは様々な環境との相互作用により、発達していくことを理解している	★50 %
子どもを取り巻く環境は、日々変化をしていきます。子どもは環境との相互作用を通して自ら発達していく主体的な存在であることを再認識して、子どもの発達と、それに適した環境を今後も整えていきたいと思います。		
65	子どもが興味や関心を示し、主体的に関わる環境を用意している	★45 %
平成30年度より、子ども達がより一層主体的に関われる活動を計画していきます。		
66	子ども同士の関係の基盤となるように、一人ひとりの子どもと信頼関係を構築している	★10 %
これは、質問の意図が不明瞭だったため、低い数値になったようです。しかしながら、保育者との安定した信頼関係を基礎として、周りにいる友だちへと子どもの世界は広がっていきますので、保育者と一人ひとりの子どもの信頼関係構築に努めていきたいと思います。		
67	心身の発達の個人差を理解するために、一人ひとりの生理的、身体的な諸条件や生育環境の違いを把握している	★50 %
一人ひとりの子どもの、発育・発達の状況については、入園時等に書類に記入していただいたり、個人懇談や親子手帳等で担任や中堅職員・管理職は把握をしています。家庭環境や子どもの心身の変化が大きく変わった時には、職員会議で把握するように努めています。しかしながら、全ての子どもの細かい情報については、担任以外の全職員は十分に理解はできていません。今後も把握をするように努めていきたいと思います。		
69	豊かな感性と共に好奇心、探求心や思考力が養われるように保育を工夫している	★55 %
当法人の職員は、遊びを通して子どもの好奇心や探求心、思考力が養われるように、園内研修や法人内の合同研修会、わかば保育実践研究会（月1回程度土曜日）で、他園の同年齢のクラスを持っている保育教諭（保育士）を交えて相互作用しながら研修をしています。子どもたちに良い教育・保育が提供できているのかを日々振り返り（自己評価）をしています。これからも現状に満足せず、向上していけるよう勉強していきたいと思います。		
71	発達の気になる子どもや、障害のある子どもに対しても子ども自身の力を十分に認め、適切な援助及び環境構成を行っている	★63 %
発達の気になる子どもや、障害のある子どもに対しての研修は、園内研修や園外での様々な研修で行っています。今後もさらに研修等を行い、子ども理解を深め、適切な環境構成、援助や手立てをしていきたいと思います。また、家庭との連携や関係機関との連携も必要ですので、連携を強化していきたいと思います。		

◎ 自己評価アンケートの結果やコメントについては、法人内の3園が等しく質の高い保教育・保育を提供できるように、法人内の会議や研修で検討しています。